

10月の予定

		教会暦	教会行事
1	日	年間第 26 主日	
2	月	守護の天使	
4	水	聖フランシスコ(アッシジ) 修道者	
6	金		初金 7:00 10:00 ミサ
7	土	ロザリオの聖母	9:30 教会の大掃除
8	日	年間第 27 主日	10:15 小教区評議会
15	日	年間第 28 主日	10:00 壮年会例会
16	月		14:00 三日月会 ミサと例会
17	火	聖イグナチオ(アンケオ) 司教殉教者	
18	水	聖ルカ福音記者	
21	土		13:00 「エゼキエルの預言」講演会(兩宮神父)
22	日	年間第 29 主日 世界宣教の日	13:30 「エゼキエルの預言」講演会(兩宮神父)
23	月		11:00 ベビーとママの集い
28	土	聖シモン 聖ユダ使徒	14:30 教会学校ホールミサ 12:30 シルバー大会(大阪カテドラルにて)
29	日	年間第 30 主日	13:00 聖体奉仕者の集い

日々の雑感

教会には復活祭以降、病気の苦しみの中で信仰を求め、神の癒しの力を願って洗礼を受けられた数名の方々がおられます。教会共同体の中にも、ご高齢や重病のため療養中の方々が少なくありません。病気に耐える力と回復の恵みを皆様と一緒に祈る毎日です。また、数名の幼児洗礼があり、夏には中学一年生の男子生徒二名が自ら洗礼を望み信仰を学んで受洗。同じく前途有望な青年男女三名が、熱心な準備を経て受洗され、大きな希望を感じました。これからの社会を担って行く若者たちが神の子供として健やかに成長し、キリストの救いの福音を伝えてくれるように祈って止みません。

今年のニュースの中で日本が世界一を占めたのは長寿記録更新であり、平均寿命が男性79歳、女性86歳に伸びたことでした。日本は山々があり海に囲まれ、四季おりおりの大地の恵みと海の幸が豊かな環境にあり、医療・介護も充実しつつある恵まれた国に住んでいるからだろうと思います。神の計らいと国を支えてきた先輩の方々に感謝する日々ですが、此の地上には平均寿命60歳という短命の国々もあり、また数知れない“小さな人々”と戦争や天災の被害に喘ぐ多くの難民がおられるのです。どうして人間の世界はこんなに不公平なのだろうか、と嘆きつつも祈らざるを得ません。

ところで、日本人の寿命はまだまだ伸びて行くのでしょうか。100歳、110歳の方々が町を闊歩するような時代が来るのでしょうか。否、と言いたいところですが、たとえそうなったとしても、人間は必ず此の世を通り過ぎて行くのです。何びとにも人生は一回限りです。“此の世”は神様が創造された美しい世界ですが、何故か不完全に創造されているので、人間が到達できる永久の幸せや完全な目的は、此の世にはあり得ないのです。

あーそれなのに、それなのに、多くの人はお金や仕事のことで頭が一杯になり、此の世が全てであるかのように快適さと安楽さばかり求めています。

他方で、世界一のニュースは15歳以下の子供の数が総人口の13%に減り、出生率が1.25と最低率になったことです。確実に、逆ピラミッドの道を歩み始めました。時々耳にします。“最近の子供は遊ぶ友だちも少ないし、塾に行かされて可哀想そうね。だから親が甘やかすのでしょうか”と。30代～40代の若い親は、変化の多い複雑な時代に、どのように教育すれば良いか迷っているのかも知れま

せん。しかし、また耳にします。“忍耐心や責任感のない子供が増えたのは、親の教育が悪いからでしょう”。それでは、一体誰がそのような親を育てたのでしょうか。“それは30代～40代を育てた60代～70代の親が、戦後の成長期に甘やかしてしまったからでしょう”と。

私たちの悩みや不安を解決してくれる答えは、どこにあるのでしょうか？唯一の答えは“信仰”にしかないと確信します。子供や若者に対しては、健全な宗教教育が必須であると思います。それは難しいことではなく、親が子供に「生きた信仰」を見せることではないでしょうか。親の願いは例外なく、子供の幸せです。子供の永遠の幸せです。その幸せは神の前で誠実に生きて行くこと、にあるのです。子供も親の信仰を見ながら成長し、親は有り難い存在だと感じるのだと思います。私自身は今頃になって、(天国にいる親に)孝行をしなければと反省していますが、今からでも遅くはないでしょうか？親孝行は「父母を敬いなさい」と言われた神の心であり、私たちの信仰の土台でもあるのです。 桜井神父

各 部 会 だ よ り

👉 壮年会

<例会>

10/15(日) 10:15 から 第4会議室

信徒奉仕職を考える・第二回

「司祭不在時の典礼司式について」(仮題)

藤原泰さんのお話と討論会を予定しています。

多数の方のご出席をお願いします。

<男の料理教室>

10/18(水) 10:00 から

<おおいに語ろう会> 報告

9/17(日)の午後、壮年会の「おおいに語ろう会」が開かれました。イグナチオホールに50人ほどの人々が集まり、木鎌安雄さん(英知大学名誉教授・壮年会会員)から「アメリカ・カ

トリックの過去と現在」というタイトルでのお話を聴きました。壮年会の会員だけでなく、婦人会のみなさんは勿論、近隣の教会からも数人聴きに来られていました。アメリカ建国以来の教会史から、現代アメリカの市民社会と宗教とのかかわりに至るまで、質問を含めて熱のこもった講演会となりました。講師を囲んで開いた懇親会もおおいに話がはずみ「おおいに語ろう会」の面目を施しました。

<黙想会> 予告

壮年会では恒例の黙想会を今年は11/26(日)に予定しています。黙想会のあとの懇親会はハーバーランドから遊覧船コンチェルトに乗って「船上パーティー」と洒落てみたいと考えてい

ます。船上ですので定員 30 名となりますが、参加希望者を歓迎します。詳しくは教会報 11 月号にてお知らせします。

👉 婦人会

1、トップ会

14(土)10時～12時 第4会議室

バザーの受け持ち担当について話し合います。

欠席の方は代理をおねがいいたします。

2、10月の聖堂掃除当番

6(金) 西1・2

13(金) 西3・4・5

20(金) 中1・2

27(金) 中3・4

いずれも午前9時からです。

掃除マニュアルが出来ました。倉庫の棚のところにあります。黒板にも貼ってあります。

掃除用品で足りない物は、日付・地区・名前を書いて缶にお入れ下さい。

👉 三日月会

<例会>

10/16(月) 14:00～ ミサ

その後、高齢者の活躍事例発表(元海星病院長山中先生)、ビデオ鑑賞

👉 青年会

<定例会>

10/8(日) 12:30～14:00 第3会議室

福音書を読んで分かち合い

10/22(日) 12:30～14:00 ロヨラルーム

「みんなで担う信徒奉仕職」を読んで分かち合い

*初めての方もお気軽にご参加下さい!

・8/27(日)に長峰墓地の隣の仙谷でバーベキューをしました。この場所を知らなかったのに驚きました。結局ご飯10合を炊いてカレー3種を作り、バーベキューをして大いに盛り上がりました。途中からバレンタイン神父様、中高生会のリーダー達も参加して下さいました。8月最後の日曜日にふさわしいイベントになったと思います。皆さんご協力ありがとうございました。

👉 典礼部

<聖体奉仕者の集い>について

日時: 10/29(日)13:00～16:00

(聖体賛美式、講話黙想、分ち合い)

場所: 小聖堂とイグナチオホール

指導: オマリー神父様

なお、事前アンケートを実施いたします。

👉 社会活動部

10/6(金)11:00～ 社会活動部連絡会

於: 第2会議室

11/19のチャリティーバザーの件などを話し合いますので、出店希望のグループの代表者は、必ず御出席下さい(代理可)。出店のお申込は志水(078-796-0754)迄、早急に御願い致します。

👉 地区会

1、地区会世話人会を下記の日程で開催します。

10/15(日) 全灘区 (地区番号14～34)

10/22(日) 全東灘区 (地区番号1～13)

10/29(日) 灘、東灘区以外

(地区番号35～51)

場所: 教会信徒会館1,2号会議室

議題: ・今後の地区割

・病者訪問の現状と今後のあり方

・意見交換

2、東灘、住吉地区合同集会開催予定

10/21(土) 10時～12時 ザビエルハウス

<お 知 ら せ>

このコーナーでは所属部会の枠を超えて、みなさまに広くお知らせしたい事項を掲載しています。教会の掲示板にも同様のお知らせが多数ありますので、あわせてお読みください。

【典礼部より】

御ミサの前に静けさを導くため、オルガニストに前奏をお願いすることにしました。

10月より共同祈願の答唱句を歌います。

よろしく申し上げます。

【社会活動部より】

10/4(水) 10:00～ **手芸の集い(第1, 2会議室)**

バザーに向けて小物作りを致します。

手作りのお好きな方、何方でもご参加下さい。

10/14(土) 10:00～ **炊き出しはお休みです。**

他のグループが担当されますので、六甲教会はお休みです。又担当が回ってきました折にはご協力を御願い致します。

10/15(日) 10:00～ **手作りコーナー(於:イグナチオホール)**

イグナチオホールに於いて、いつも好評の手作り弁当他、食品、小物などの販売を致します。是非お立ち寄りの上、ご購入協力を御願い致します。

10/22(日) 14:00～16:00 **池田香代子氏講演会**

大阪大司教区シナピス主催の移動学習会が神戸中央教会で催されます。掲示板にポスターを貼っておりますので、ご覧の上、多数御参加下さい。

10/27(金) 14:00～ **おにぎり作り(於:教会台所)**

須磨方面夜回り支援の為に作ります。ご協力を御願い致します。

【婦人会より】

掃除当番募集について

9月初めから約1ヶ月間募集いたしました。

お申し込みありがとうございました。

各曜日ごとの連絡網ができ次第、連絡会を持ちたいと思います。(実施は未定です。)

<シナピス移動学習会>

池田香代子氏講演会

～いのちと平和～

「100人村、あなたもここ生きています」

10月22日(日) 午後2時～4時

神戸中央教会聖堂

参加費無料(カンパ有り)

お車でのご来場はご遠慮下さい。

俳句同好会(六甲二水会)作品展

句会が発足して2年を越えましたので、いままでの作句の一部を皆さまのお目にかけることにしました。

10月12日(木)から25日(水)午前中まで

イグナチオホールにて。

バザーのみの市の品物

11 / 19 のチャリティーバザーの品物を持ってきて下さい。

期間：10 / 22 (日) ~ 11 / 5 (日)

日用費・食料品・衣類など。どれも未使用、新品に限ります。

(特に食料品は賞味期限が充分なものに限ります)

【養成部より】

哲学入門講座 第2回 10月28日 10:30~12:00

講師：英知大学教授 奥村和滋先生

テーマ：認識の哲学 ~無知と悪との関係~

受講料：一般 1,000円、学生 300円

養成部有志が共同企画に加わったプログラムで、激しく移ろう世の中にあって私たちは如何に生きていくべきなのか、哲学の視点で学んでいければと考えています。

以降、11月25日、1月27日を予定しています。

公開講座「エゼキエルの預言」

10月21日(土) 13:00~ 及び 10月22日(日) 13:30~

講師：雨宮慧神父様

祈りの道場 12月2日(土)

【広報部より】

来年4月より教会の正式名称が「カトリック六甲教会」に変更されるにあたり、教会報も今月から新名称を使用しています。合わせて、タイトルデザインも今月より新しくなりました。また、巻頭言の文字サイズを少し大きくしてみました。

今後も見やすく、楽しい紙面を目指して行きたいと思えます。常日頃のみなさまのご協力に感謝するとともに、さらなるご支援よろしくお願ひいたします。

キリストを伝える使命を受けたものは、まず、「キリストを知ることの素晴らしさ」を求めなければなりません(428項より)

8月は「墮罪」がテーマでした。「原罪」について考え、さらに墮罪の結果「悪魔」になった「天使」についても学びました。9月は「信仰宣言」の中から、「イエス・キリスト、神のひとり子、わたしたちの主」の意味するところを勉強しました。毎回感じることは、知っているようで実は知らなかったことが多いということです。

「カトリック教会のカテキズムを読む会」は、毎月第一日曜の9時のミサ後、開催しています。文字通り皆さんで読んでいます。ご都合がついたときに、お気軽に、ご参加ください。

(桐原康多)

~~~~~・~~~~~

## 2006年中高生会キャンプ感想

僕は初めてのキャンプとして行きました。最初の日の夜はいきなりきもだめでした。トップバッターだったし、道も暗くてどこへ行けばいいのかも分からなくて、すごくこわかったです。しかも次の日は4:30起きで、山頂近くまで山登りをしないとイケなくていやなことばかりだったけどそのかわりすごくきれいな太陽は見ることでうれしかったです。夜は、すごく星がきれいで初めての流れ星を見ることができてよかったです。

3日目は、一番たいへんな1日だったと思います。朝、早くから運動会、昼からはすぐに料理コンテストがありました。僕がいる1班は運動会も料理コンテストでも1位でした。料理コンテストでは、みんなすごく塩からかったけど、1位になってしまいました。夜のキャンプファイヤーではみんなのスタンプがおもしろかったです。最後に火が消えかけでおっしーが灰を星の形にした時はすごくきれいでした。みんなでスゴした最後の夜はとてもよかったです。

とても楽しい4日間でした。友達も来た日よりもだいぶ増えて、話せる相手も多くなったのでよかったです。来年も今年みたいに楽しいキャンプにしたいです。

(中村)

今回のキャンプを通して決まった人以外の人ともしゃべれるようになりました。私は、今回初めて中高生会のキャンプに行きました。小学校のキャンプとはちがってものすごく楽しかったです。キャンプに行く前までは、決まった人としかしゃべっていなかったのに。

又、いつもは見られない朝日や星(流れ星)を見る事ができました。今回のキャンプは楽しくて最高のキャンプでした。

(松井)

今回のキャンプはとても思い出に残る楽しいキャンプとなりました。たくさんの人とも仲良くなれたし、きもだめしやネイチャーゲーム、運動会、料理コンテスト、キャンプファイヤーなどたくさんのプログラムもありました。特に、3日目は運動会、料理コンテスト、キャンプファイヤーなどがあり、とても楽しかったです。自分達で考えたことを協力しながらがんばりました。ふだんできないきちょうな体験だったのでとてもいんしょう的です。それに、なんととっても星がきれいでした。流れ星もたくさん見たし、天のがわもでていたし、いろんな星座も見れて最高でした。家にいると、そんなにきれいな星は見るできないので、このキャンプに来れたことを絶対忘れないと思います。そしてこのキャンプで自然のすばらしさを実感することができました。

(清水)

今回のキャンプでは協力することの大切さを学ぶことができたのではないかと思います。普段見ることの少ない朝日やラッキーなことに流れ星も見ることができました。そういう

面では自然との新たな出会いがあったといえると思います。そんなさまざまな景色を中高生会のみなさんと見る事ができ本当に良かったです。スタンプ練習や料理コンテストなどでそれぞれの長所や努力する姿を感じることができました。真夏のキャンプだったので夏休みって最高のような気がしました。今の言葉の意味は夏だからこそ、味わえた喜びと置きかえても良いでしょう。とにかく、このキャンプは、中高生会にとってもみなさんにとってもリーダーにとっても良い思い出になると思います。ちょっと微妙におかしな文がありますが、とにかく、キャンプは最高だ！ということです。最後になりますが、キャンプ中に歌った歌は、決して忘れず歌集もっておこうと思います。(原田)

今回行った兔和野という所は私が初めて中高のキャンプに参加した時と同じ所でした。それで私は高二なので今回でキャンプに参加するのは最後で、最初と最後が同じとこということでそれだけで気分的にも楽しかったです。

兔和野では色々な事をしました。竹でお箸を作ったり、きもだめしや運動会(?)をしたり、星や朝日を見たりと本当に色々な事をしました。特に星を見たのはすごく良かったです。星を見て思った事は、いつも見ている空と同じでいつも通り空には月が出ている。だけど兔和野の空には星がいっぱいあって輝いていた、けど自分の住んでいる街とかからでは星は全然見えなくて、でも見えないとしてもいっぱい星はあって見えなくても星は輝いている。星はいつも見えなくても輝いてて消えない消えてくれない光なんだと思いました。流れ星も見れて本当に嬉しかったです。

今回は今までで一番って言って良いくらい楽しかったです。私が楽しめたのはリーダーや中高のみんなや兔和野や星のおかげだと思います。ありがとうございます足りないくらいですが本当にありがとうございました。

(吉村)

中学生や高校生のキャンプを実施する際に、何を大切にキャンプを作り上げていったらよいでしょうか。今回のキャンプは、それを明確にする作業からスタートしました。リーダー同士で議論をし、中高生にやりたいことを問い……その中から出てきたのは次の2つの柱でした。

1つ目の柱は「自然」。キャンプ場といえば、大自然のまっただ中。都会では触れることのできない自然を体中で感じる最大のチャンスなのです。それなのに、キャンプに行って、結局テントの中でトランプしてました、ずっと本を読んでました、ではもったいないと思いました。そこで、「ネイチャーゲーム」「ナイトハイク」「星空観察」「サンライズウォッチ(日の出観察)」「山登り」などのプログラムを企画・実施しました。

2つ目の柱は「仲間」。キャンプ場では、中1から高2までの子供たちとリーダーが共に生活し、活動するのです。その中で新しい出会い、新しい人間関係を作りながら、共に

協力することによって、最終的には「なかま」になっていく。そんな姿を目指して、「きもだめし」「運動会」「料理コンテスト」「キャンプファイヤー」などのプログラムを企画・実施しました。

このようなプログラムによって進んでいったキャンプが、中高生にどのように受け止められたかは、中高生の感想からうかがい知ることができます。「このキャンプで自然のすばらしさを実感することができました」という清水美沙さん、「兎田野では色々な事をしました...特に星を見たのはすごく良かったです」という吉村祐基くん、「友達も来た日よりもだいぶ増えて、話せる相手も多くなった」という中村雄悟くん、「今回のキャンプを通して決まった人以外の人ともしゃべれるようになりました」という松井くららさん、「今回のキャンプでは協力することの大切さを学ぶことができたのではないか」という原田涼平くん、どの中高生も、自分にとって何か意味のあることをそれぞれなりに受け止めてくれているように思います。そして、彼らを実感を持って受け止められた事こそ、神様につながる大切な実感だと思うのです。私は、中高生会の活動の中で、そんな実感を作れるような活動をこれからも続けていきたいと思っています。 (中学生会リーダー 三澤)



自然の中でミサを捧げました



## 聖書朗読リレー

8月26日、小聖堂で行われた聖書朗読リレーに初参加させていただきました。

夏の日差しが厳しく照りつける中、小聖堂に一步入ったとたん、緊張感と静寂の中に聞こえる朗読の声とに別世界を感じ、身の引き締まる思いが致しました。順番を待つ間に、気持ちも落ち着き、ほぼ予定の箇所の朗読を終えた時には、なんともいえない安らぎを覚えしました。

その折の、時間を正確に計って合図を下さる方、現朗読箇所をパネルで提示して下さる方の支えがあつての無事の進行に感謝いたします。

これを期に、自分の生活の中に、聖書と向き合うゆったりとした時間を持ちたいと、日頃の生活を反省すると共に思いを新たにしております。

(川合)



~~~~~・~~~~~

「水谷修・夜回り先生」 講演会

9月8日(金)19時より「兵庫生と死を考える会」の共催者として、多くの皆様のご協力を得て、講演会を無事盛況のうちに終えられましたことの御礼とご報告をさせていただきます。

心配された天候も危惧に終わり、3時頃から整理券落手の為にこられた方のお姿も見えるなど、今の子供達の抱える問題、親、人生の先輩としての接し方のヒントを求めておられる方が如何に多いかを垣間見せて頂いた様な気が致します。講演の時間帯の関係もあり、予測よりも来場者は少なく「聞きたいんだけども」と残念がっておられた方も多数おられたようです。関った者としては、もっともっと多くの若者や、その保護者に聞いて貰いたいな、折角のチャンスを残念だなどの思いが残りました。

講演後の後片付けまで、多くの方にご協力を頂きました事を御礼申し上げます。

おひとりの方の感想を頂いております。ご覧下さい。

(社会活動部 志水)

<感想>

水谷先生の講演会に参加させて頂きました。仕事帰りに聞きに来たので、疲れて眠くなってしまうのではと思っていましたが、先生の登場から終わりの挨拶まで、先生のお話に引き込まれ、終わった時には、眠かった事などすっかり忘れてしまっていました。それほど先生のお話は、子供達の危機、日本社会の危機を感じさせるものでした。

子供達にとって、家と学校が心安らぐ場ではない、自分を受け止めてもらえる場ではない。

そんな彼らが見つけたのが夜の世界。しかしそこには彼らを利用しようとする大人や、薬といった魔の手が待っている。が、学校や家庭が自分を受け入れてもらえない場となっている彼らは、そこに向かうしかない・・・。

彼らは安らぎの無い崩壊した家庭、学校教育の被害者です。私達は一人でも多く、魔の手から子供達を守らなければならない。そして先生が言われたように、教会は、この家庭にも学校にも受け入れられない子供達の安らぎの場となる事を求められている。

子供達を、「いいんだよ。」と受け止め、心安らぐ場となる教会を築いていかなければならないと思いました。 (黒森)

~~~~~・~~~~~

## 池長大司教「みんなで担う信徒奉仕職」講話

9月18日当日は、青年会及び婦人会の方々も参加頂き約160名の聴講者となりました。池長大司教は冒頭に多数の参加に謝意を述べられ、続いて御自身が大阪教区内の各教会に出向いて首題である司祭、修道者、信徒による共同宣教司牧の実践状況を確認している旨を述べられました。

1) 第二バチカン公会議を機にこれまでの宣教司牧が司祭、修道者を中心に行われてきたのを、信徒を含めた共同宣教司牧に方向転換されたが、公会議から既に40年以上経過した今日も依然として全信徒にその趣旨が浸透していない。

2) 大阪教区が進めている「みんなで担う信徒奉仕職」の要望するところは、専門教育(講習)を受けて司教の承認(資格)がないと実施出来ない教理教育、集会祭儀等のみを指すのではなく、資格がなくても実施可能な典礼奉仕、聖体奉仕、侍者、聖書朗読、先唱、オルガン演奏、聖歌先唄、来訪者の介助、聖堂掃除、在宅の祈り等々、広範囲に亘る信徒なら誰もが参画可能な奉仕も含めているのです。

3) これらの奉仕活動が恒久的にかつ、円滑に実践される為には、制度面の整備が必要で、各教会の小教区評議会で審議される事案に、これらの宣教司牧活動が審議の対象になり、サポートすることが明確になっていて、各奉仕活動グループの代表者が評議委員に選ばれ、会議で審議に参加して、司祭の下で(カトリック教会法典に合致している)適正に処理される事が求められている。

すでに六甲教会では評議会で奉仕活動についても審議されているが、今後多岐にわたる奉仕活動が活発になった場合に対処可能なのかについて、評議会規約の見直しが必要か否かと、全信徒が実践している事の確認をどうするのかを検討する必要がある。

(三日月会 馬場)

今月は 10 月 4 日が聖人の祝日となるアッシジのフランシスコに関する著作の幾つかをご紹介します。

### <アッシジのフランチェスコ>

キアラ・フルゴニ著 白水社

12 世紀後半から 13 世紀前半にかけて生きたこの聖人の魅力的な生涯について、社会情勢を大変分かり易く背景として、1 人の人間の生き様、同時に神に心をとらわれた人間の生き様を丁寧に書いています。

### <アッシジの聖フランチェスコ>

ジュリアン・グリーン著 人文書院

詩的な美しい本で、じっくりとフランシスコを味わって読みたい方にお薦めします。まるで中世の彼の時代に生きているようで、それでいて資料は非常にはっきりと説明されています。著者ジュリアン・グリーンの特徴ある文の運び方も読みやすいと感じられます。著者自身の信仰も感じられ、フランシスコが長い世紀にわたって人々の信頼と興味を集めてきた理由も理解できます。

### <アッシジのフランチェスコ>

川下 勝著 清水書院 (セテリ・ブックス)

著者はコンベンツアル聖フランシスコ修道会の司祭。フランシスコ修道会の誕生と当時の社会的背景を書きながら、同時にフランシスコの人間性や交友関係などを、細かく描いている労作です。フランシスコの生涯と思想についてまとまった本をお読みになりたければ、簡単に読める本です。

### <アッシジからの伝言>

小平 正寿著 社会評論社

聖フランシスコ修道会の司祭である著者が、

日々感じ、考えた事を書き綴られた本です。フランシスコについてのものであれば、フランシスコに従って生きる著者の心を横切った人々への語りかけもあります。例えば、アッシジにある山の隠遁所カルチェリについて、「フランシスコが祈るためにこもった隠遁所です。彼においては祈りがすべてでした。たとえそれが騒がしい街中でも、頭巾をかぶり、衣で顔全体を覆う時、そこが彼の隠遁所となったのです。しかしもっと祈りに集中したい時、キリストをもっと身近に感じたい時、彼は山の静けさと寂しさを選んだのです。それがモンテ・スバシオの岩屋(カルチェリ)であり、ラヴェルナ山での洞穴での隠棲です。」と書かれていますが、私達に祈り方を教えてくれる言葉です。フランシスコを探しに行きたいと感じさせる簡単なイタリア紀行も最後に付け加えられています。やさしい言葉で述べられていますので、どなたにでもお薦めできる本です。

### <真の智に至るまで>

エロワ・ルクレール著 光明社

教会報 2003 年 2 月号でご案内しました本書は、フランシスコの祈りの精神の中核、祈り方の単純さを示してくれるので、重ねてお薦めします。

### ビデオ<ブラザーサン・シスタームーン>、

<神の道化師 フランチェスコ>

前者は 1972 年制作のもので、青年向きです。後者は、1950 年制作。聖フランシスコの小さき花から取られた話で、中世期の単純な人々の心や生き方を彷彿とさせます。

(三輪)

|                                                                                                                                                                                             |                                                                                                                                         |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>教会報月11月号の発行は、10月29日(日)です。<br/> 編集会議は10月22日(日)です。<br/> 記事原稿は、10月15日(日)正午までに信徒会館事務<br/> 室へご提出願います。(広報部)</p> <p><a href="http://www.rokko-catholic.jp">http://www.rokko-catholic.jp</a></p> | <p><b>カ ト リ ッ ク 六 甲 教 会</b></p> <p>〒657-0061 神戸市灘区赤松町 3-1-21<br/> 電 話 0 7 8 - 8 5 1 - 2 8 4 6<br/> 発行責任者 桜 井 彦 孝 神 父<br/> 編 集 広 報 部</p> |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|